

## 寄贈資料展示 時と危険を告げる鈴

入学式が終わり、ゴールデンウィークも終了した現在、新しい生活に慣れた方は、多いのではないのでしょうか。始業時・終業時の合図としてチャイムを鳴らす学校、職場は多いかと思えます。チャイムは現在、機械式・電子式で自動的に鳴らすところが多いかと思われます。これらのチャイムが普及する以前は、手を振って鳴らす鈴（手振鈴・てしんれい）が使われており、今月はこの手振鈴を紹介します。

最後になりましたが、貴重な資料を寄贈していただいた方へ改めてお礼を申し上げます。



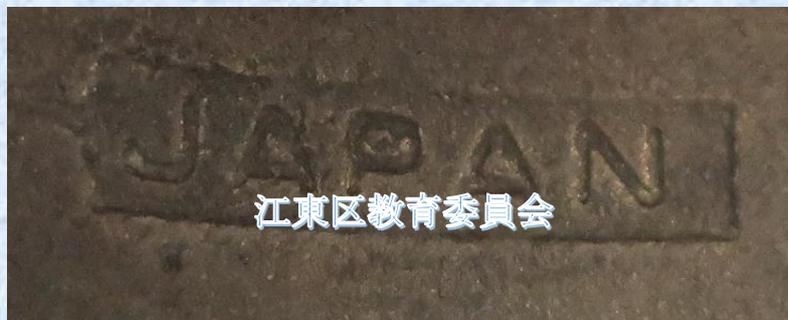
手振鈴

### 手振鈴の状態について

手振鈴は、鐘の表面は、やや錆びていますが、穂損箇所はありません。鐘の内側には「JAPAN」の刻銘（陽鑄）が確認されます。内側には振り子がついており、振り子を金属製の鐘の部分に打ち付けて音を出すようになっています。破損はありません。現在でも鳴らすことは可能です。



手振鈴の内側



「JAPAN」の刻銘

## 展示資料(手振鈴)について

今回展示している資料(手振鈴)は、寄贈者によれば、元々は亀戸地区の小学校で授業の開始・終了を告げるために使用していたとのこと。しかし、使われなくなったため、城東地区の消防団へ譲渡されました。

譲渡された消防団では、この手振鈴を非常時のサイレン代わりに使用していました。展示資料(手振鈴)は、小学生たちに時を告げる鈴から地域の人たちへ危険を伝える鈴へ役割を変えつつ、使用されました。